

龍源寺報

令和5年（2023年）孟蘭盆号

臨濟宗・妙心寺派	住職 松原 樹
佛母寺住職 松原 樹	正福寺住職 松原 樹
TEL	03-3451-1853
FAX	03-3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23（郵便番号 108-0073）

Email: info@ryugenji.com

URL: http://www.ryugenji.com

日本の孟蘭盆会について

中国の年中行事が、日本に伝わり、日本の文化に影響を及ぼしたものが少なくありません。孟蘭盆会もその一つであり、日本で孟蘭盆会の行事が行われた記録は、推古十四年（六〇六年）に「この年から始めて寺ごとに四月八日・七月十五日に設齋することになった」（『日本書紀』卷第二十二・推古天皇条）とあります。

また、お盆で有名な、釈尊の弟子である目連が餓鬼道に堕ちた亡母を救う「目連救母」の話は、源為憲の『三宝絵』（九八四年）に記されているものが最も古く（『三宝絵』下巻・僧宝の二四・孟蘭盆 自恣を加ふ条）、その後になって『餓鬼草紙』や『説経浄瑠璃』の中で地獄の恐怖が述べられ、さらに『目連記』のように説経節や浄瑠璃として民衆に流布されるようになりました。説経節『目連記』においては、悪業によって地獄に堕ちた母を救うために冥途に赴いた目連が、賽の河原の地藏や、三途河（ししやうず川）の姥の教えで閻魔王の住み処に行き、獄卒の案内で八大地獄に落ちている母を見いだし、「七月十五日に、十丈に床を祓い清め、百味の飲食を供え、万灯籠を灯し、施餓鬼を行い、『法華経』を転読すれば、速やかに地獄の苦しみから逃れて成仏する」という釈尊の教

えにより、目連の母は成仏します。龍源寺で行われる孟蘭盆会も、本堂に棚を出し、野菜や乾物、お米、水などを供えて供養致します。さらに、説経節『目連記』は、地獄に堕ちた母親の姿を見て悲しみもだえている目連の姿も詳しく描写しています。

然る程に、獄卒どもが母罪人を鉾の尖に貫き、尊者の前に捧げける。目連、此（の）由御覧じ、さながら夢の心地にて、母上に取り付き、「これは、これは」とばかりなる。落つる涙の暇より仰（せ）けること哀れなる。：目連、あまりの悲しさに「いままし」と泣き給ふがその甲斐さらに無かりけり。

（八文字屋八左衛門本・説経節『目連記』）

これは、かつて日本の寺院で多く語られた目連救母を物語る説経の一節です。おそらく日本のお寺で昔から語られたお説教の一つだと思われます。明治年間に至るまでに『目連尊者地獄めぐり』と題する古浄瑠璃風な盆踊唄の正本が刊行されています。目連救母の話はこうした様々な変遷をたどり、仏教の孟蘭盆会の行事と関係し、多くの人々に浸透してきました。孟蘭盆会の持つ意味や、そこに込められた人々の心をこれからも大切に受け継いでいきたいと思えます。

（信樹）

ご 寄 付

一千万円 故荒尾雅也殿

五十万円 匿名殿

三十万円 田中光茂殿

三万円 飯沼定子殿

三万円 匿名殿

ありがとうございました

孟蘭盆会

一、七月十日（月曜日）

午前十一時より

一、法 話

・駐車場はありません。

南北線をご利用ください。

※大変貴重なご寄付をありがとうございました。
龍源寺の周囲が再開発される中、龍源寺を地域の文化資源の一つとして捉え、先代から引き続き境内整備に力を注いで参りたいと思います。未熟者ですが、今後とも宜しくお願い申し上げます。

松原信樹

納骨堂の建設準備を始めてます

1トン近くある大きな
石の水鉢を移動致しました。



観音堂の横より納骨堂に
通じる道を整備致しました。

柳 緑
花 紅

孟蘭盆会を迎えます。高額
の寄付を賜り、心より感
謝申し上げます。おかげさ
まで、納骨堂と龍源寺歴代
住職墓所の建築の下工事が

始まりました。龍源寺総代の豊前屋
さんに石を移動していただいたり、敷石
を敷いていただいています。以前、修
行時代、素人ながら、敷石を敷いたこ
とがあったのですが、せいぜい一日四
枚が限界だったことを思い出しました。
やはり、熟練の技は素晴らしいと思
いました。できるだけ、境内の木は切ら
ずに下工事を進めています。▼私自身、
五月に突然、帯状疱疹を患い、辛い思
いをしました。皮膚を患うことは、非
常に苦痛なことだとはじめて知りまし
た。原因は心労ということですが、ス
トレスは、あまり感じない性格なので、
知らず知らずのうちに溜め込んでいた
のでしょうか。お医者さんに聞きます
と、最近、帯状疱疹に罹患する方が多
いとのこと。治癒するまで三週間近く
かかりました。▼六月中に哲学者の大竹

稽さんとの共著を出版するご縁をいた
だきました。お世話になった方々に深
く御礼を申し上げます。娘の瑞樹は、
小学生になり、学校生活にも少しずつ
慣れてきたようです。先日運動会があ
り、徒競走で一生涯懸命に走る生徒さん
達の姿をみて、「自分も、あんなに一生
懸命に走っていた頃がきつとあったん
だ」と、なぜかこみ上げてくるものが
ありました。いつまでも、初心を大切
にしたいと思います。家内は、母とし
ての仕事、客室乗務員としての仕事、
お寺の仕事と忙しくしています。私は
仕事の姿を一度も見ただけはありませ
んが、どうも、仕事場に着いて一時間
ほど気持ち切り替える時間を作って
いるようです。家に帰ると娘との時間
を取り戻すように娘と向きあって家事
をしています。母は、最近の外出とい
たら病院の行き来くらいですが、元氣
にさせていただいております。家内が
泊まりの仕事の時など、娘のお弁当を
作ってくれたり、宿題をみてもらっ
たり、掃除をしてもらったり、大変助かっ

ております。母が口にする言葉の一つ
に、「何かちょっとしたことでも悪いこ
とをしてはいけけないのよ」という言葉
があります。母は北鎌倉の禅寺に生ま
れ、現在も龍源寺を護持し、特段、旅
行や買物に出かけることもなく、全く
の自然体でお寺にみえられるお檀家さ
んと接しています。多くの人の寂しさを、
悲しさときあい生きてきた母の言葉
なのでしょう。▼七月十日、午前十一時
より孟蘭盆会を厳修致します。エレ
ベーターと玄關通路の段差の修繕をし
準備をしています。新盆を迎える方は、
多くの僧侶に読経いただきますので、
御来山いただけたら嬉しく思います。
また、七月十日(月)にご都合の悪い方
十五日(土)まで荘厳を本堂に設置して
いますので、お盆のお参りにおいでくだ
さい。孟蘭盆会は、荘嚴の関係上、本堂
内のご焼香となります。マスクの着
用は自由にお願致します。もちろん
御来山いただかなくても、ご連絡いた
だければ御回向させていただきます。
寺族一同お待ち申し上げます。(信樹)